



薩摩保護区保護司会 広報紙

保護司会だより

2016
6月
第2号

編集・発行：薩摩保護区保護司会 薩摩川内市・さつま町 薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内） ☎0996-41-6196 FAX 0996-41-6196

再犯防止で 安心・安全な 社会を



薩摩保護区保護司会
会長 田中 実
たなか みんる

保護司の仕事は大きく分けて二つあります。犯罪や非行をし
てしまった人たちがスムーズに社会復帰できるよう改善更生を
手助けすること。もう一つは犯罪や非行のない明るい社会つ
くりの啓発活動です。

一昨年「宣言」として 犯罪に戻らない・戻さない、立ち直
りをみんなで支える明るい社会へ」と言うことが犯罪対策閣
僚会議で決定されました。そのような経緯もあって現在、再犯
防止が安全・安心な社会を築くための主要課題と位置付けられ
ています。

わたしたちの薩摩保護区は他地区と比べても犯罪が少なく比
較的平和な町と言えると思いますが、再犯防止の具体的な
活動として「社会貢献活動」「就労支援」を行っています。

「社会貢献活動」は、社会の一員としての意識を育て、規範意
識の向上を図ることが目的とされています。代表的な活動とし
ては福祉施設での介護補助活動、公共の場所での環境美化活動
等があり、当保護区内の四つの福祉施設・神社・公共施設等に
ご協力を頂き実践の場とさせていただいています。

また、「就労支援」は刑務所出所者等の再犯を防止し、その改
善更生を図るために大変重要で就労の有無が再犯を防止できる
かどうかに関係していると言われています。

彼らの就労支援を実効的に行うには事情をよく理解した上で
雇用し、立ち直りを支援する協力雇用主の存在が不可欠です。
現在、我が保護区でも七事業所に登録をしていただいております
ですが、今後も各方面をお願いをして支援の輪を広げていき
たいところです。

その他、「社会を明るくする運動」等八十三名の会員と地区内
三更生保護女性会・川内BBS会はじめ地域の皆様と連携を深
め保護司会活動の充実を図りたいと考えています。

※BBS(Big Brothers and Sisters Movement)は、その名の通り、「お兄さん」や「お姉さん」のよう
な存在として少年たちと一緒に遊んだり、悩みの相談にのったりなど、「同
じ目の高さで」接しながら彼らが健やかに成長することのお手伝いをし
ているボランティアです。

更生保護：立ち直りを支えるしくみ

罪を犯した人たちの立ち直りを助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐしくみを更生保護といいます。

更生保護ボランティアとしての
直接的な支援

地域社会に
復帰

地域の人たちの理解と協力

保護司としての支援

保護司は、刑務所や少年院か
ら出て「保護観察」を受けるこ
とになった人などを指導し、相
談にのったり、様々な支援を行
う民間のボランティアです。

住居が必要

地域との
絆が必要

仕事が必要

“社会を明るくする運動”に参加する。

刑務所や少年院、職業訓練などで
作ったものを購入する。

更生保護ボランティアを支援する。

協力雇用主や更生保護
施設の職員として支援

更生保護女性会員やBBS
会員として支援

罪を犯した人の立ち直りを見守り、
彼らの存在を受け入れる

次の様な事に利用できます。

1. 地域住民からの犯罪・非行に関する相談の窓口
2. 地域における関係機関・団体との連絡・協議
3. その他更生保護に関する活動（ご相談下さい）

所在地	薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内）
名称	薩摩地区更生保護サポートセンター（薩摩保護区保護司会事務局）
電話	0996-41-6196
FAX	0996-41-6196

研修部の活動について

現在、薩摩保護区保護司会には、薩摩川内市とさつま町併せて八十三名の会員がおります。研修会は、年四回実施しており、保護観察所より講師の方が来られ、毎回テーマをそれぞれ設け、会員同志の事例発表や意見交換も行なっております。

特に、新しい会員に対してはサポートが大事であると考え、現在ではベテランの会員と一緒に保護対象者との面接を行ったり、様々な助言や指導を実施しております。さらに、二月の自主研修では、外部より講師の方をお招きし、今年度につきましては鹿児島市の唐湊にあります鹿児島少年鑑別所より主任官にお越し頂き、過去の経過や現状の問題点など詳しく説明して頂きました。特に少年犯罪の場合、保護観察となる事案が多く、保護司との連携が非常に重要となつてきております。

ただし、現状におきましては、入所してきた三割の少年が再犯により戻ってくるという現実があり大きな課題となっているとの事でした。又近年では八月に行政の方々と小中高校の校長、教頭先生方、さらには警察の関係部署の方にも御参加頂き現在の地域の現状を詳しく説明して頂き重要な情報交換の場として実施致しております。

又、研修部におきましては隔年毎に県外施設の視察を行っております。一昨年は北九州医療刑務所と鳥栖にあります女子刑務所を訪問し、現場での様々な問題を見聞きし、日頃の保護司活動に役立てております。現在では、様々な社会問題が複雑化してきており、保護司だけではどうも解決で

きない事例もあり、社会全体の問題として、日頃より皆様方からも情報提供をして頂きながら、青少年を取り巻く様々な問題に取り組む、関係団体と連携を取りながら活動していく事が不可欠となつてきております。私共保護司会と致しましても、一人でも多くの方の社会復帰に向けて、さらなる努力をして参りたいと考えております。今後共、皆様方の御理解と御協力を宜しくお願い申し上げます。



研修部長
松元 くにあき

邦明



第65回(2015年) "社会を明るくする運動" 作文コンテスト

小学生の部 南日本新聞社賞(優秀賞) 受賞

社会を明るくするために、
今私達ができる事。

薩摩川内市立亀山小学校六年

小村 優花

私は、社会を明るくするためには、一人一人みんなが明るくなっていくことが必要だと思っています。

そのためには、まず、あいさつをするべきだと思いました。私の学校では、委員会であいさつ運動という運動に取り組んでいます。決められた週の朝に校門に立ち、あいさつをするというものです。私たちがあいさつをすると、あいさつを返してくれる人もいますし、中には、自分からあいさつしてくれる人もいます。その時には、この運動をしていてよかった、と思います。

でも、あいさつを返してくれない人がいた時は、はずかしいのかな。と思いつつ、少し悲しくなります。でも、私自身も低学年の時はあいさつ運動であいさつをあまり返せてなかったと思います。ところが、ある時にあいさつを返せないでいると、その時にあいさつ運動をしていた高学年の人が、私の身長に合わせてかんでくれて、もう一度、

「おはよう。」

とあいさつしてくれたのです。その時には、私もあいさつをきちんと返すことができて、とてもうれしくなったことをおぼえています。なので、あいさつは、する方もされる方もうれしくなるのであいさつをみんながするようにすると、社会は明るくなっていくと思います。

次に、思いやりや優しさが大切だと思いました。思いやりは、バスなどで席をゆずるなどとも思いますが、言葉使いに気を付けることも思いやりだと思います。みなさんは、「ふわふわ言葉」と「ちくちく言葉」を知っていますか。「ふわふわ言葉」とは、「すこいね。」や、「もう少しこはこうした方がいよ。」など、相手が言われて不愉快な気持ちにならない優しい言葉使いのことです。逆に、「ちくちく言葉」とは、「うるさい。だまれ。」や、「早くしろ。」など、相手が言われて不愉快な気持ちになる、言葉使いのことです。みんなが、相手を思いやって「ふわふわ言葉」を使っていけば、社会は明るくなっていくと思います。

最後に、助け合いが大切だと思いました。一週間ほど前、私が友達と下校していると、一年生の子がけがをして、ひざから血を流していました。一年生の子は、泣きそうになっていました。私は、思わず走ってその子のところへかけよって行きました。私の

友達も気づいていたのか、友達もその子
ところに行っていました。その子のひざ
らは血が流れたままで、もうくつ下につ
きそうだったので、とりあえずランドセル
をおろして近くのコンビニでトイレの水道
をかりることにしました。やがてその子の
血は止まり、話を聞くと、同じ年の男の子
におされて転んだそうです。しかも、その
男の子はあやまっていないと言っていま
した。せめてあやまってくればよかったの
な。と思いました。その後、今は一年生
の子はすれちがうたびに手をふってくれ
ます。私は、あの時助けてあげてよかつ
たな、と思いました。このように、助け
合いから生まれる出会いもたくさんある
と思います。だから、助け合いがふえ
ると社会は明るくなっていくと思いま
す。

社会が明るくなるための方法は、ま
だたくさんあると思います。でも、私達
一人一人がささいなところからでも
明るくなっていけば、社会も明るく
なると思います。「一日一善」とい
う言葉があります。それを日本の全
ての人、約一億二千万人が行くと、
一日だけでも約一億二千万個の
明るくなるということになります。
社会が明るくなっていることは、こ
のようにポジティブな考えを持
つことも必要だと思います。この作
文を読んだ人みんな、あいさつ、思
いやりや優しさを持ち、助け合
いをしていくことを願います。み
んなでこの社会を、もっと明るく
していきませんか。



中学生の部 鹿児島県更生保護
女性連盟会長賞(優秀賞) 受賞

クリーン作戦に参加して

薩摩川内市立川内中央中学校三年

藤原 愛咲

七月十九日、朝六時から「クリーン作戦」
が行なわれた。毎年この時期に開催されて
いるが、朝の苦手な私はなかなかその開始
時間に起きることが出来なかった。そして
その度に、『また参加できなかった』とい
う気持ちになっていた。

五時四十分、目覚ましの音で目が覚めた
昨晩は休むのが遅かったため、布団から出
たくなかったが、何とか起き上がり、身支
度を整えて指定の場所へと向かった。

行ってみると同じ班の人はすでに作業を
始めていた。少々緊張気味だった私は、出
遅れたことで早くも『来なければよかった』
と感じていたが、思い切って『おはようご
ざいます』と自分でも驚くほどの大きな声
で挨拶をした。すると、作業をしていた
方は皆手を止めて、私より大きな声で『お
はよう』と返してくださった。それだけで、
私の不安は取り除かれ、心が軽くなり、す
んなり作業へ加わることができたのである。
作業は、前日に機械で刈った草木を集め
てゴミ袋に詰め込んだり、残った草を抜い
たりと単純なものではあったが、参加者は
皆てきぱきと慣れた手つきで進めていた。
早朝で曇っており、太陽は出ていなかった
が、湿度が高かったのか、すぐに汗がガラ
ガラと流れてきた。決して楽な作業ではな
かった。

私の班で学生は私だけだった。中学生は
もちろん、小学生も高校生もいない。周り
は大人の、それとかなり年配の方ばかりだ

った。他の班も学生の参加は全くなく、ほ
とんどが高齢の方ばかりだ。私も今回が初
めての参加ではあったが、毎年このような
感じなのか、他の地区もこんなかと思わ
された。

自分たちの住んでいる地域を人任せにし
ては、その地域はすさんでいく一方だろう。
しかし、自分たちの地域をきれいにすると
いう目的で集まった人々は、お互いに挨拶
をし、声をかけ、笑ったり、悩みを相談し
たりしている。クリーン作戦は一つのきっ
かけで、地域の人々のコミュニケーション
の場となっているのである。私は、参加者
はもっと学生にも参加してほしいと思っ
ているに違いないと思った。なぜなら、た
った一人の学生である私にみな次々に話しか
け、多くの質問を浴びせたからである。そ
して『若いのに、えらい』と言われたのだ。
本当に『えらい』だろうか。

若い人ほど率先して作業をすべきなのに、
高齢になって体力が衰えても若い人がしな
いから自分たちがやっているのに、軽い気
持ちで参加した私を『えらい』と褒めてく
さるのだ。

もう一つ、気になったことがあった。ゴ
ミである。クリーン作戦で集まったゴミの
中には、空き缶、ペットボトル、空きビン
が多く含まれていた。そのゴミはほとんど
が見えないように隠されていたのである。
きつと『誰も見ていないから』と思ったの
だろう。さらに、コンビニ袋に入ったゴミが
道路脇に捨てられているものもあった。ク
リーン作戦に一度でも参加していれば、ゴ
ミの放置は決まらずに済むはずだから、恐
らくこれは若い人たちの行為ではないだろ
うか。自分の住む地域のあちこちにゴミが
散乱しているのを何とも思わない人と、そ
れをどうにかしようと思う人がいる。地域

のことを思う気持ちにずれがある。そして、
どうにかしようとする人は高齢の方ばかり
なのである。

しかし、私自身も今回たまたま早く起き
てこのクリーン作戦に参加したが、あのま
ま誘惑に負けてもう一度眠っていたら、こ
んな現状も知らなかったし、地域を思う気
持のずれにも気付かなかったに違いない。
ポイ捨ても、一度もしたことがないかと言
われたら、『このくらいならいいか』と捨て
たこともある。だから、えらいそうなのは
言えない。

では、クリーン作戦に毎年参加している
高齢者の方はどうだろう。恐らく『また今
年も学生の参加はないな』『またこんな所
にゴミが投げ捨ててある』と何度思ったこと
だろう。

私は、すこしずつそんな思いを減らして
あげたいと思った。拾ってくれる人の苦勞
を知らないから捨てるのだ。きれいにし
てくれる人の苦勞があるから、この地域は美
しく保たれているのだ。それを少しでも多
くの人に気付いて欲しいと強く思った。

人が生きていくには『協力』『手助け』が必
要である。そして、お互いのことを考えて
生活することで『思いやり』が生まれる。

クリーン作戦は、この当たり前のよう
でとても大切なことを確認させてくれる活
動だ。もっと若い世代が参加することで、『協
力』『手助け』『思いやり』の心が芽生え、『感謝』
の気持ちまで生まれるだろう。犯罪や非行
を防ぐ、最も身近で実践しやすい活動だ
と思う。

作業のあとに出された冷たいお茶は、私
をこのうえなく幸せな気持ちにさせてくれ
た。

平成28年度薩摩保護区保護司会役員名簿

支部名	役職名	氏 名	備考
南	会 長	田 中 実	
東	副会長	村 原 政 和	
東	副会長	永 山 伸 一	
北	事務局長	福 山 義 幸	サポートセンター長
南	会 計	加治屋 卓 朗	

支部名	役職名	氏 名	備考
北	理 事	伊 東 正	北支部長
南	理 事	鹿子木 努	南支部長
東	理 事	瀬戸山 義 弘	東支部長
西	理 事	蔵 元 保 海	西支部長
さつま	理 事	新 改 幸 一	さつま支部長

平成28年度薩摩保護区保護司会学校連絡保護司名簿

支部名	氏 名	学校連絡保護司
南	鹿子木 努	平佐西小
南	宮 田 羊 子	永利小
南	尾 曲 祐 一	隈之城小、川内南中
南	井 上 光 男	峰山小、高江中
南	若 田 吉 朗	平佐西小、川内中央中
南	加治屋 卓 朗	平佐西小
南	永 留 博 文	川内南中
南	野 平 誠	川内中央中
南	藤 崎 睦 子	隈之城小
南	西 一 徳	永利小
南	右 田 健 二	川内南中
南	木 場 宣 行	高江中
南	有 馬 貞 喜	平佐西小
南	松 元 邦 明	川内小、川内中央中
南	中 内 カ ネ	川内小
南	山ノ内 文 夫	峰山小、高江中
南	久木野 勲	隈之城小、川内南中
南	吉 内 孝 徳	川内小
南	田 中 実	れいめい中
南	中 川 一 朗	隈之城小、れいめい中

北	伊 東 正	育英小、川内北中
北	田 中 晴 樹	可愛小
北	福 山 義 幸	亀山小、川内北中
北	三 浦 美 幸	育英小
北	小田原 勇次郎	可愛小、川内北中
北	斎 藤 治 城	八幡小
北	宮 田 修 一	育英小、八幡小、川内北中
北	山 元 昭 子	高来小、平成中
北	尻無濱 一 喜	育英小
北	神 田 隆 美	育英小
北	亀 田 信 暁	水引小
北	熊 川 正 文	吉川小、平成中
北	大 村 恵美子	水引小、水引中
北	石 田 幹 雄	水引小、陽成小
北	川 畑 明 則	水引小、水引中
北	加 藤 信 行	亀山小
北	黒 屋 善 文	亀山小
北	下 園 絹 子	陽成小
北	大 園 喜一郎	育英小、八幡小
北	檜 木 敏 文	水引小、水引中

支部名	氏 名	学校連絡保護司
東	瀬戸山 義 弘	樋脇小、樋脇中
東	大 田 純 一	樋脇小、樋脇中、市比野小
東	中 村 健一郎	山田小
東	上 戸 勇	東郷小
東	水 流 信 雄	大馬越小、入来中
東	牟 禮 貞 雄	樋脇小、市比野小、樋脇中
東	村 上 眞理子	市比野小、樋脇中
東	岡 野 龍 信	蘭牟田小
東	堀 内 伊津子	副田小、入来中
東	村 原 政 和	黒木小、祁答院中
東	田 島 洋 輝	祁答院中、大妻小
東	初 田 健	入来小、入来中
東	平 林 輝 美	大妻小、祁答院中
東	山 下 浩 一	南瀬小
東	北 原 一 利	上手小、祁答院中
東	田 代 幸一郎	鳥丸小
東	永 山 伸 一	藤川小、東郷中
東	村 岡 文 正	朝陽小、入来中

西	蔵 元 保 海	中津小、上甕中
西	加 来 賢 隆	手打小、海陽中
西	小 村 昌 治	鹿島小
西	下 江 伊八郎	海星中
西	野 島 秋 彦	里小、里中
西	中 野 力 丸	長浜小

さつま	新 改 幸 一	盈進小
さつま	久 保 敬 作	佐志小
さつま	徳 留 昇	山崎小、山崎中
さつま	山 下 英 雄	盈進小
さつま	野 崎 華 子	宮之城小
さつま	三 腰 鈴 子	盈進小
さつま	浜 崎 典 子	盈進小
さつま	小椎八重 巳 年	宮之城小
さつま	柏 木 幸 平	宮之城小
さつま	中 山 幸 男	宮之城小
さつま	東 哲 雄	鶴田小、鶴田中
さつま	木 下 賢 治	中津川小
さつま	宮之脇 金次郎	柏原小
さつま	宮 サダ子	盈進小
さつま	福 山 道 徳	求名小
さつま	水 口 憲 一	永野小、薩摩中
さつま	勝 田 俊 治	山崎小、山崎中
さつま	川 口 憲 男	柏原小
さつま	手 塚 良 平	流水小